

謹賀新年

辰



龍

龍

た

た

辰

辰

辰

くみあいだより

JAなんぽろ



JAなんぽろホームページアドレス <http://www.ja-nanporo.or.jp>



南幌町農業協同組合

新年ご挨拶



南幌町農業協同組合
代表理事組合長
林 裕司

新年あけましておめでとうございます。
組合員の皆様には輝かしい新春を、ご家族皆様で健勝で迎えられましたことと心よりお慶び申し上げます。

平素よりJA事業運営に對しまして、組合員をはじめ、南幌町、各関係機関より格別のご支援、ご協力を賜りますことに、心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症も終息に向かい、5月の5類移行後、経済活動も活発化し人の流れ、農産物の消費拡大とコロナ禍前まで戻りつつあります。JA事業においても徐々にではあります、イベント等の開催、組合員との交流など事業運営も回復しつつあります。

昨年の営農にあつては、積雪期間は105日で平年より長くなり、融雪期も平年より10日程度早く融雪が進み、気温が高く天候も大きな崩れもなく比較的穏やかに経過したことから春作業は順調に進みました。一部、一部の作物で生育が停滞したものの7月下旬からの真夏日が過去最高の40日以上

にも及び、当初、昨年に並ぶ豊作を期待しておりましたが、干ばつ、猛暑による影響で作物全般に少なからずマイナスの影響を受けることとなりました。

水稻は、田植え期以降、一時的に日照不足となりましたが、おおむね高温多照で経過したことから分けつが順調に進み、出穂期以降も高温傾向が続く登熟が順調に進んだこともあり、10月25日時点での作況指数は北海道「104」、南空知で「103」となりました。集荷実績では140,291俵、出荷契約対比では99%となりました。品質面では猛暑の影響を受け、昨年と比べるとシラタ米が多く見受けられ、総体的にタンパク値が高く、「ゆめぴりか」で基準内品26.2%の入庫となっています。

小麦は、春先から天候に恵まれ、生育が順調に進んだことから、収量・品質とも期待されるなか、「きたほなみ」は粒重が軽いことから8.5俵と製品反収は前年を下回り、「ゆめちから」10.1俵、「はるきり」7.6俵と前年を上回った結果、全品種合計では8.7俵と昨年同様の製品反収となっています。

また、大豆をはじめ他畑作物、蔬菜等についても一部で病害虫、天候等による被害は見受けられましたが、おおむね農畜産物全般にわたり豊稔の秋を迎えられ、沢山の農産物の出荷、JA事業の利用に対して重ねてお礼申し上げます。

一方、漸くコロナ禍以前の日常を取り戻しつつありますが、国際紛争や急激な円安

の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが、農業経営に甚大な影響を与えております。これらにより、世界の食料需給事情が一変し、輸出制限を行い、自国の食料を確保する各国の動きが活発化し、食料不足問題など食料の争奪が始まっております。我が国の食料を安定的にどのようなように確保するのか、今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっております。

食料自給率を向上させて、農業の持続的発展を図っていくためには、国民が消費する食料は自国で生産する、国産国産の取り組みや農業・農協に対する幅広い理解と共感を得る取り組みを積極的に進めていくことが必要であります。

さらには、大規模な自然災害の相次ぐ発生や温暖化、コロナ禍を契機とした生産・消費の変化・物価の上昇など、食料・農業・農村を取り巻く情勢は大きく変化しており、昨年から政府で検討されている「食料・農業・農村基本法の制定」「食料安保」、ひいては農産物の適正な価格形成に大いに期待するところです。

そのようななか、組合員にJAが果たすべき役割・責任は一層重大なものとして受け止め、今後においても更なる繋がりを強化してJAを信頼して利用していただき、十分満足していただけるように引き続き努力し組合員の所得安定に努め、共に持続可能な夢のある農業の実現に向けて取り組んでいかなければならないと思っております。国民の食と生命を守り、さらに多面的機

能としての国土を守る農業に自信と誇りを持ち、組合員一致団結した力をJAに傾注することにより、山積する課題に立ち向かわなければなりません。

第30回JA北海道大会で設定した「北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」の実現に向け、対話を通じて加速する社会・経済環境の変化を共有しながら実践・改善にJAグループ北海道が一体となって取り組むとともに、最終年である第15次農協事業中期計画ARCH(アーチ)に掲げる「環境変化に対応し、将来にわたって持続可能な南幌町農業・農協の確立」を実践検証し、南幌町農協の経営理念「JAなんぼろは、最幸の信頼・利用・満足を實現し、組合員と地域社会に安心を届けます」を役職員全員の理念として組合員及び地域社会と信頼関係を深めるとともに、農業所得確保の強化に向けて「現状把握と環境整備による収量・収入増加」と「所得増加方策の継続」に取り組み、力強い持続可能な南幌町農業の基盤づくりを増して強化展開しますので、組合員各位の特段のご理解と、より一層の結果、ならびに積極的な農協利用をお願い申し上げます。

結びになりますが、迎えた本年が、新型コロナウイルス感染症も終息し、ご家族はじめ組合員皆様、事故なくご健康とご多幸で過ごされ、災害の無い豊稔の秋を迎えられますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

令和6年の 年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会
代表理事長
樽井 功

新年あけましておめでとうございま
す。

組合員の皆様におかれましては、日々
営農に更に邁進されておられることと
存じます。また、組合員・役職員の皆様が
一丸となり地域農業の振興や地域社会
の発展に向け、日頃より多大なご尽力を
されていることに對しまして、改めて敬
意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、春先は
天候に恵まれ地域によつて降雹被害や
竜巻の被害が見られたものの、概ね、平
年並みに推移しておりました。しかしな
がら夏場は猛暑による記録的な高温多
湿の影響を大きく受け、各作物の生育自
体は、全般的に平年よりも早く進んでき
ましたが、各作物等の収量および品質の
低下が顕著となる残念な年でした。

新型コロナウイルス感染症の位置付

けは昨年5月より5類に移行し、コロナ
禍以前の日常を取り戻しつつあります
が、各農畜産物の消費は依然として低迷
しており、さらに、国際紛争や急激な円
安の進行による飼料・肥料をはじめとし
た生産資材の高止まりが、農業経営に与
える影響は甚大なものとなっています。

さらにこれらの影響を受け、世界の食料
需給事情が一変しました。輸出制限を行
い、自国の食料を確保する各国の動きが
活発化し、世界的な人口増加による食料
不足問題など食料争奪合戦がすでに始
まっています。我が国の食料を安定的に
どう確保するのか。今こそ大いに食料安
全保障の国民的議論が必要となつて
います。現在、日本の食料自給率は38%
しかありません。これは、世界の先進国
の中で最低の水準であり、6割以上の食
べ物を輸入に頼っているのが日本の現
状です。食料安全保障の強化が国家の喫
緊の課題であることから、我が国の食料
供給基地である北海道農業が果たして
きた役割、そして北海道農業への期待
は、今後ますます大きくなるものと考え
ております。

J Aグループ北海道は、日本の食料基
地であるという使命感に立ち、食料の安
定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大
を両輪として引き続き取り組むことが
重要であり、国民の命の源である食を守
り続けるにも、まさに新しい農業を築

き、未来の世代へ繋いでいく必要があ
り、行政や全国連とも連携し、しつかり
とその対応を図って参ります。

今年は、第31回J A北海道大会が開催
されます。また、第30回J A北海道大会
の実践最終年度であり、決議された
将来ビジョンである、「北海道550万
人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅
力ある地域社会』の達成」の成果をしつ
かりと検証し、次のJ A北海道大会に繋
げていく必要があります。このような状
況であるからこそ、協同組合運動の原点
に立ち返り、相互扶助の精神に基づき互
いに協力し、力を合わせこの難局を乗り
越えることが重要となります。

消費者の皆様に対しては、今まで以上
に農業・食に対する理解を求めるため、
J Aグループ北海道統一の情報発信の
フレーズである「アグリアクション北海
道」を浸透させ、より効果的な情報発信
を行い、J Aグループが提唱する「国消
国産」の認知を広めて参りましょう。

結びになりますが、本年は辰年です。
辰年は陽の気が動いて万物が振動する
ので、活力旺盛になつて大きく成長し、
形がととのう年だといわれています。

この謂われにあやかり、本年が豊穡の
年となること、皆様のご健勝をご祈念申
し上げ、年頭のご挨拶といたします。

謹賀新年



代表理事組合長

林 裕司

専務理事

高島 茂和

常務理事

辻崎 徹

理事

織田 章

白倉 崇史

小林 弘孝

瀬川 徹

岩崎 正範

畠山 高

奈良岡勝利

代表監事

白倉 隆幸

常勤監事

小林 信昭

監事

中川 和芳

藤本 裕光

新年の挨拶



JAなんぼろ青年部
部長
岩村 国宏

新年あけましておめでとうございます。
昨年中は青年部活動に際し、各関係機関の方々と並びに組合員の皆様にはご理解とご協力頂きましたことを厚く御礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた方々におかれましては、今年がよい年になることをお祈り申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げられ、感染者への入院勧告、感染者や濃厚接触者の外出制限、屋内で推奨されてきたマスクの着用、感染者の把握、感染者を診療する医療機関への補助といった医療的な措置が変わりました。また、ロシア・ウクライナ情勢は変わらず、世界経済に甚大な影響を及ぼし、原油や肥料、飼料、農業資材や機械、物価の高騰は止まらず、農業経営を圧迫している状況であります。

そのような状況下で、国は食料安全保障の強化に向けた経済対策を取りまとめ、今後は食料・農業・農村基本法の検証・見直しに向けて議論が進められる見通しであり、日本国内における農業が見直されつつあ

ります。我々若手農業者も国民に対して国産国産を訴え、第一次産業、とりわけ農業が日本に及ぼす役割を強く訴え、今一度各関係機関と連携しながら行動を起こしていかなければなりません。

昨年の作柄としては、干ばつからの高温・猛暑・長雨と我々農家にとつてはとても大変で苦しい年となりましたが、水稲については北海道で「104」、南空知で「103」となりました。麦・大豆では収量減少や品質の低下、蔬菜においては猛暑と長雨により管理作業ができず、病気や軟腐が多発し、値段は高いが物が出せない、とても苦しい思いをしていました。

昨年度の青年部活動を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の5類移行により活動が復活し、コロナ禍以前の活気ある姿を取り戻しました。スノーメッセージに始まり、青空教室では国際農機展見学で帯広へ。JA夏祭りでは米粉を使用したお好み焼き、焼きとうきびを販売。くるるの杜での対面販売や食育体験、収穫感謝祭での新米販売、九州では米販売等様々な活動を行うことができました。

今年も昨年同様の活動を行えることに期待し、南幌町の農業を盛り上げていきたいです。そして我々青年部は様々な活動を通じて交流から生まれる新たな可能性を原動力に食と農の大切さを伝えてまいります。

最後になりますが、本年も各関係機関、組合員の皆様方にはご指導・ご鞭撻のほどよろしく申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年の挨拶



JAなんぼろ女性部
部長
林 孝子

新年あけましておめでとうございます。

日頃より女性部活動に対し、各関係機関の方々と並びに組合員の皆様には、特段のご理解とご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症も5類に移行となり、猛暑日の続く夏も終わり女性部活動も4年ぶりに全ての行事が戻りました。

6月の部員研修は、新札幌のホテルでのランチブッフェを堪能してもらい、その後当別のロイズへ向かい工場見学をしました。

11月は、懇談会でユニニの湯へ行き地域貢献活動として雑巾を気持ちよく洗って縫いました。短い時間でしたので、残りを持ち帰って雑巾を仕上げて頂きました。本当にご協力ありがとうございました。その後家庭菜園での正しい農薬の使い方と題して、クミアイ化学の石田氏より講演をしてもらい、美味しい昼食を取りゆっくりと温泉に浸かり自由な時間

を過ごし、笑顔の一日となりました。また、家庭介護教室はWEBで、料理講習会では4品を作り得意料理の一つとなった事でしよう。

12月には、フレッツシユミズの交流会として蔬菜園芸課による講演とエスコンフィールドでの見学、くるるの杜にて昼食を取り楽しい時間を過ごすことができました。もともと多くの参加者を増やすため、女性部との関わり方を考えていこうと思っています。

最後になりますが、今年度は女性部創立70周年を迎える事ができました。記念式典は予定していませんが、2月9日の女性部大会に併せて記念事業として、ホクレンアンバサダーを務めます、チームナックス森崎博之氏の講演が決定しています。是非、女性部の皆様で盛り上げて頂きたい。ご参加の程よろしくお願い致します。また、70年という節目と共に女性部活動に於いて、時代の流れを感じ見直せる部分はないのか、検討の余地はないのかと思っています。執行部内でも話し合い女性部皆様からも意見を聞き一人でも多くの参加者が楽しんで頂けますようご協力と引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



青年部だより

発行者
JAなんぼろ青年部
編集責任者 石川 卓也

全道青年部大会に参加

12月7日（木）から8日（金）にかけて、札幌パークホテルで開催された第72回全道JA青年部大会に盟友4名が参加しました。

1日目は、令和5年度全道JA青年の主張大会と第48回全道JA青年部活動実績発表が行われ、全道大会に出場する単組のハイレベルな発表に圧倒されました。また、同日に全体懇親会が行われ、地区を超えた交流を行いました。

2日目は、「動画で発信！農の魅力」コンテスト上位作品の上映や北海道大学大学院農学研究の小林国之准教授の基調講演を聴きました。

大会に参加した岩村部長からは、「2年後に自単組でも活動実績発表があるので今回の大会は良い刺激となった」との話がありました。



女性部短信

懇談会4年ぶりに町外で実施

11月20日（月）、夕張郡由仁町ユニの湯にて、令和5年度女性部懇談会が開催され女性部員21名とお子様2名が参加しました。はじめに、空知女性協議会地域貢献活動である雑巾制作を行いました。皆さん、お話をしながら心を込めて、丁寧に作成していました。続いて懇談会は、クミアイ化学工業株式会社石田浩也氏を講師にお招きし、「家庭菜園での正しい農薬の使い方」と題し、お話いただきました。笑いも交わりながら楽しくお話しをしていただき、最後には部員からの質問も多数出るなど、とても良い時間でありました。野菜品目別の害虫と病害対策のパンフレットや自宅でも活用できる文房具等をいただき、皆さん喜ばれていました。懇談会後は自由時間となり、机いっぱいの豪華な昼食を前に、何から食べようか迷いながら、どれも美味しくいただくことができました。昨年迄は、コロナウィルスの影響から昼食を一緒に食べることができなかったため、久しぶりに顔を合わせ、楽しい一日となりました。



酢を活用した美味しい料理

11月27日（月）、あいくる調理実習室にて女性部対象の「エコープ酢料理講習会」が開催され、女性部員23名が参加しました。エコープ酢の製造元、大興産業（株）から講師をお招きし、講習を行いました。始めに、お酢の基礎知識について説明していただき、お酢がもたらす効果やエコープ酢の種類の違いなどが紹介されました。その後、料理講習が行われ、お酢を使った料理として「いわし蒲焼缶の混ぜ寿司」、鶏むね肉の梅照り焼き、白菜のカレーマリネ、「ごぼつき」の生姜スープの4品を作りました。各班それぞれ役割を分担しながら協力して作った料理は、どれも簡単に作ることができ、お酢が入っていることであっさり食べやすく、とても美味しく出来上がりました。「鶏むね肉の梅照り焼き」では、鶏肉ばかりではなく魚でも代用することができるなど、新しい知識もたくさん教えていただき、自宅でも作ってみようという気持ちになりました。今回の酢料理講習会ではお酢の性質や特徴、また、料理についても学べ、大満足で終わることができました。



海外視察研修報告



JAなんぼろ青年部
副部長 **奈良岡 凌平**

この度、自分は11月5日～9日の5日間、JA空知青年部連合会の海外視察研修で香港とマカオに行かせていただき、簡単にですが内容を報告します。コロナの影響もあり、数年ぶりの海外視察が再開され、自分自身も役員の兼ね合いもあり、とても良い機会でしたので参加させて頂きました。

初日は16時の飛行機に乗り5時間、現地のホテルに着いたのは22時頃。まず、香港に着いて驚いたのは密集した建物とその高さでした。香港はこれまでに大きな地震は一度も無い事や、地盤は硬い岩盤のために建物を地下に伸ばす事は困難であったために、狭い土地の中で上へ伸ばす事しか出来なかったのだと聞きました。

2日目は、朝にビクトリアピークから香港の市街地を眺め、レパルスベイ、下町のスタンレーマーケット、黄大仙という大きな寺院など観光地を周りました。午後からの、視察先であるカントリーファーム・ボタニカルガーデンは、香港の市街地から1時間ほど離れた山の中にある所で、約50haの敷地に主に香港市街地にでた野生動物の保護を目的にしている施設と、斜面に段々

になっている小面積の圃場にて野菜や果物を栽培しているとの事でした。園内には、さつまいもやバナナ・葉菜類・ハーブ類・唐辛子類など様々な物が植えられて、全てが無農薬で栽培されており、ここで作られた物は全て直売所にて売られ、オーガニック志向の方たちがよく買いに来ているとの事でした。自分たちの視察中には、幼稚園児、小学生がたくさん来ていて、動物もたくさんいましたが、農業という産業がない国の小さい子供たちの勉強の場にもなっているのかなと思いました。

3日目は、朝から1時間ほど高速船に乗り、マカオに移動しました。現地の日本人ガイドのもと、市街地全部が世界文化遺産になっているマカオの歴史や文化などを聞き、カジノの含め貴重な体験をさせて頂きました。布教活動と貿易のためにそれぞれポルトガルやオランダから入ってきたというマカオには、建物やどこまでも続く綺麗な石畳、今でも多種多様な人たちが生活しており、香港とはまた違う風景と街並みがありました。

4日目の視察最終日には、文武廊という寺院、セイ・ジョーン教会、現地の人たちが野菜、肉、果物など日常の食料を調達する油麻地マーケットにバスで訪れました。文武廊は、香港で一番古い建物で文武両道の語源になったとも言われている寺院でした。

市街地のデパートには日本産や道内産表記の米や野菜、果物、牛乳、日用品などがたくさん

並んでいて日本産の需要の高さを感じましたが、日本米の値段は高く、香港・マカオどちらも富裕層の人たちがよく好んで買われるようです。

その夜に、女人街というマーケットに訪れましたが、そこで見たある親子が忘れられません。そこは、観光客向けの露店が並ぶ所ですが、我が家の子供らはとくに寝ている時間に、子供を抱え、パイプ椅子に子供を座らせ、お粥を食べさせながら物を売っている親子でした。その姿は、自分の普段の生活や食べる事について考えさせられた出来事でもありました。

今回の視察先について出発前までは「農業の事で何か得られる物はあるかな」と心配に思っていたのは正直な気持ちでした。実際に現地に着いて農業や圃場、機械関連を探しましたが、最後まで見つける事は出来ませんでした。しかし、自分の足で歩いて、自分の目で見て、耳で聞き、他国の歴史と文化、生活を知り、様々な国の人達に触れられた事で色々な事を考えさせられた4泊5日でした。また、今回は少人数での視察でしたが空知管内の他単組の人たちと繋がりができ、研修に参加したからこそできた仲間もいましたので、とても嬉しく思います。

最後になりますが、今回の視察研修に参加するに当たりまして、ご支援して頂きました各関係機関の皆様には厚くお礼申し上げます。視察研修の報告とさせて頂きます。本当にありがとうございました。

長船技師による営農情報！



2024年(令和6年)の干支は辰年(たつどし)

1 辰年(たつどし)とは

新年明けましておめでとうございます。2024年は12支では第5番目に数えられる辰年(たつどし)ですが、本来の干支でいうと甲辰(きのえ・たつ)です。「甲(きのえ)」の意味は優勢であることを表わす他、まっすぐに堂々とそそり立つ大木を表わします。「辰」は12支の中で唯一空想上の生き物で、龍(竜)を意味します。水や海の神として祀られてきた龍は、竜巻や雷の自然現象を起こす大自然の躍動を象徴するものであり「龍が現われるとめでたいことが起きる」と伝えられてきました。この二つの組み合わせである甲辰には、「成功と芽が成長していき、姿を整えていく」という縁起のよさを表わしています。明治25年(1892年)～平成24年(2012)年までの過去11回の辰年の水稲作況指数と米の1俵価格推移と町内の出来事を下記の表にまとめました。さて、本年はどうなるのか、豊穰の秋を祈願するところです。

辰年の水稲反収(kg/10a)・作況指数と価格の比較

西暦(辰年)	元 号	収量kg/10a	作況指数	1俵(60kg)価格	世 相
2024	令和6年				
2012	平成24年	562	105	15,215円	南幌彗星販売開始
2000	平成12年	540	103	15,104円	南幌町人口9,792人
1988	昭和63年	512	104	16,743円	営農振興組合設立
1976	昭和51年	361	80	16,572円	遅延型冷害
1964	昭和39年	263	68	5,985円	遅延型大冷害
1952	昭和27年	320	113	3,454円	幌向村(現南幌町)人口7,292人
1940	昭和15年	162	—	16円94銭	夕張太青年学校設置
1928	昭和3年	250	—	10円8銭	8月大水害
1916	大正5年	221	—	6円	幌向村(現南幌町)人口3,539人
1904	明治37年	244	—	4円32銭	7月大水害
1892	明治25年	129	—	2円28銭	夕張太に八幡神社の標柱設置

- 北海道の水稲作付面積と反収の推移・作況指数から抜粋作成
- 米価の推移(政府買入価格 明治21年～平成8年)
- 平成24年産米の相対取引価格 農林水産省
- 南幌町百年史 下巻
- JAなんぼろ 創立50周年記念誌

❀ 特集 JAなんぼろ女性部 ❀

JAなんぼろ女性部が今年度で創立70周年をむかえるにあたり、先月からの2か月間、女性部活動を紹介しています。今月号では、詳しい行事内容についてお伝えします。

6月

～部員視察研修～

6月、部員視察研修に行っています。今年度は、新札幌・当別方面へ向かい、ホテルエミシアにて美味しいランチbuffetを楽しみ、ロイズカカオ&チョコレートタウンにて工場見学を行いチョコレートの製造について学びました。過去には、旭川方面や小樽、千歳方面等様々な場所で研修を行っています。ぜひ、“皆さんの行きたい場所！”で“やりたいことを！”交流を深めませんか！



11月

～女性部懇談会～

11月は、毎年恒例女性部懇談会です。今年度は、由仁町ユニの湯へ行き、クミアイ化学工業株式会社による「家庭菜園での正しい農薬の使い方」と題し、講習会を行いました。昨年は、フラワーアレンジメント作成など講師をお招きしての講習会と作品制作を行っています。参加者からは、久しぶりに顔を合わせる機会となり、「嬉しい」という声が聞こえています。



～エコープ酢料理講習会～

11月、まだまだ行事が続きます。エコープ酢料理講習会です。大興産業㈱から講師をお招きし、エコープ酢を使った料理講習を行います。短時間で簡単に作れるレシピを教えてください、最後には作った料理を試食し、「おいしい！」「家でも作ってみたい！」という声が多数聞こえています。



～フレッシュミズ視察研修～

次に、フレッシュミズ視察研修です。フレッシュミズとは、45歳以下の女性部員を対象としており、同年代の皆さんが交流を深められる場となっています。



12月

～空知管内JA女性部研修大会・家の光大会～

12月には、空知管内JA女性部研修大会・家の光大会が行われます。この大会では空知管内各地のJA女性部員が集まり、交流を深めています。管内の女性部員が一堂に会するとても貴重な機会となり、美味しいお弁当を食べ、講演会を聞き、とても充実した時間を過ごすことができます。



2月

～女性部大会～

2月は毎年、女性部大会を開催しています。家の光記事紹介やお楽しみ抽選会等楽しいイベントが盛りだくさんです。そしてなんと今年度は、

ホクレンアンバサダー 森崎博之氏記念講演会決定！！

創立70周年を記念し、お招きする予定です。2月9日（金）たくさんの皆さんのご参加お待ちしております。



以上で、女性部特集ページは終了になりますが、少しでも女性部の活動に興味をもっていただけでしょうか？是非、沢山の女性部員の皆さんにご参加いただき、楽しい時間を過ごせたらと思います。気になること、やってみたいこと等随時募集していますので、お気軽にご連絡ください。

TEL:011-378-2274 FAX:011-378-0846（営農部 農業振興課 事務局 香川・吉田）

理事会報告

12月7日

12月定例理事会で審議された主な内容について、次のとおり報告申し上げます。

【議案】

1、規程類の改正について

【報告事項】

- 1、秋の経営懇談会の開催内容について
- 2、令和6年度作付意向面積の集計について
- 3、11月末農産物保管状況について
- 4、11月末蔬菜販売状況について
- 5、11月期JAローンの貸付について
- 6、内部監査の実施報告について
- 7、組合員異動状況について
- 8、令和5年度第3四半期の固定資産取得、処分について
- 9、令和7年度職員採用計画について
- 10、要領の改正について
- 11、固定資産の賃貸について
- 12、永年勤続表彰と記念品について
- 13、11月末財務状況について

～表紙の紹介～

◎今月号の表紙は、辰年生まれの当JA役職員の9名に表紙を飾っていただきました。



南幌町

フォトコーナー



▲JAなんぼろ青年部は、福岡県のエフコープ大野城店さんで新米の道外販売を行いました。販売や研修については、来月号の記事に掲載予定です。

編集後記

新年あけましておめでとございます。
今年のくみあいだよりは、今までよりも面白く皆さんに読んでもらえる様に工夫していきたいと思います。
今年も一年、くみあいだよりJAなんぼろを宜しくお願いいたします。

くみあいだより担当の吉田も、青年部とくるるの杜の体験学習に参加しました。内容は、来月号に掲載予定です！



私達のJA

令和5年11月末日現在

組合員 (前年同期比)	2,658名 ▲38名
正組合員 (前年同期比)	429名 ▲17名
准組合員 (前年同期比)	2,229名 ▲21名
正組合員戸数 (前年同期比)	271戸 ▲9戸